

2-4 学修成果の評価や卒業認定の基準

2-4-1 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

《**体育学部 学位授与の方針**》

体育学部では、大学・学部の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を習得し、豊かな人間性、健康・スポーツ科学に関する専門的知識と、競技スポーツ、健康運動、健康・スポーツ教育のいずれかの分野に関する実践力、コミュニケーション能力とグローバルマインドを身につけた学生に「学士（体育学）」もしくは「学士（健康科学）」の学位を授与する。

体育学部 体育学科

体育学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（体育学）」を授与する。

- (1) 体育・スポーツの科学的知見を深め、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する能力を身に付けている。
- (2) 健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。
- (3) 幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。
- (4) 現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。
- (6) 体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。
- (7) 体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。
- (8) 修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。

体育学部 健康科学科

健康科学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、柔道整復分野、健康科学分野、スポーツ医科学分野の教育研究を通じて社会に貢献できるとともに、それら各分野のリーダーとして活躍できる指導者・教育者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に「学士（健康科学）」の学位を授与する。

- (1) 医療人として、広範でグローバルな視点と知識を身に付けている。
- (2) 柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。
- (3) 幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。
- (4) 医療人として現代社会に果たす役割を理解し、様々な立場の人々と良好に職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。
- (6) 感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付けている。
- (7) 日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている。
- (8) 修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。

《次世代教育学部 学位授与の方針》

次世代教育学部では、大学・学部・学科の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を修得し、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けた学生に「学士（次世代教育学）」の学位を授与する。

次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（次世代教育学）」を授与する。

- (1) グローバル社会の新たな保育者として、国際的な視野での保育観を磨き、国際理解のための知識を身に付けている。
- (2) 乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている。
- (3) 子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。
- (4) 家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善するためのコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数量的スキル等の力を身に付けている。
- (6) 保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている。
- (7) 主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている。
- (8) 広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。

次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、初等教育あるいは中等教育（英語）に関する知識・技能を修め、それらをグローバルな視点で活かす実践力、コミュニケーション能力を有した次世代の教育者や指導者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（次世代教育学）」を授与する。

- (1) 確かな世界観の下、グローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力を身に付けている。
- (2) 専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。
- (3) 豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている。
- (4) 周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。
- (6) 高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。
- (7) 子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。
- (8) 修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている。

次世代教育学部 国際教育学科

国際教育学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、若者の自己実現、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成、英語力のある中・高英語教員、コミュニケーション能力や問題解決力を備えた企業人、多文化環境にも適応できる日本語教員の養成を目指している。そこで、以下の資質・能力を身につけた学生に学位「学士（次世代教育学）」を授与する。

- (1)世界中のどこでも、異なる文化的背景をもつ人々とコミュニケーションでき、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」
- (2)文化・制度の垣根や境界を乗り越えて異なるイデオロギーや価値観を理解する「多文化理解・異文化理解力」
- (3)日本の伝統文化を理解し、その理解をもとに自己のアイデンティティーを発見し確立していく「伝統文化の理解力」
- (4)二十一世紀の国際社会の情報・知識基盤型社会で活躍するための批判的思考・情報リテラシー等のスキル及び他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力
- (5)我々が生きる世界の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決を求めてやまない探究心
- (6)国際社会において他人と協働・協力しつつ活躍できる実践力
- (7)習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自ら積極的に課題に取り組み、創造的に思考しながら問題を解決していく能力

《経営学部 学位授与の方針》

経営学部では、大学・学部での教育研究上の目的、人材育成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を修得し、豊かな人間性と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力および、幅広い教養に基づく課題提案力やプレゼンテーション能力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力、そして国際人としての自覚を身に付けた学生に「学士（経営学）」の学位を授与する。

経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、高い専門性と実行力を持ち、的確なマネジメントを実行できるリーダーシップ、グローバルな視点、新事業への挑戦、社会的責任を自覚した企業経営等の要請に応じることができる自律的人材の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（経営学）」を授与する。

- (1) グローバルに拡大している企業活動、市場経済、公的分野に関連する社会現象、市場について分析・理解する能力を身に付けている。
- (2) 広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付けている。
- (3) 国際人・リーダーとして「社会に貢献する経営」を実践するための豊かな教養として、歴史・社会・自然を含めた学際的な知識を身に付けている。
- (4) 社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) 現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付けている。
- (6) グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付けている。
- (7) 主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付けている。
- (8) 総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付けている。

[2019年5月1日現在]